

Social Construction of New Industry

講演者：Howard E. Aldrich(Professor of Sociology, University of North Carolina)

日 時：June 12, 1995(16:00-17:30)

場 所：H-257

本講演会でAldrich教授が発表された研究は、組織が新しく形成された際に、「新しい」がゆえに不利益を被ること、また、その産業が形成期にある場合は、特に不利益や困難を被りやすいことに着目したものである。産業を新たに形成する起業者が直面する一連の制約、つまり認知的および社会政治的正当性確保の相対的欠如に焦点を当てている。

新しい事業に乗り出すことは、起業家にとっては常にリスクをとめない、これから始めようとする活動に前例がない場合は、特にリスクは大きいはずである。つまり、新規事業を始める組織は既存事業を行っている組織より、新規市場の開拓、不確実性のもとでの資本調達、非熟練労働者の雇用、さらには組織特有の諸問題への対処等、困難は決して少なくない。

Aldrich教授は、革新的な経営者（起業家）が直面する多くの問題の中で、相対的に彼等が正当性を欠いている点は極めて重要であると分析する。その正当性は大きく分けて認知的正当性と社会政治的正当性の二つに分類できる。まず認知的正当性は、「新しい形態はどのようにして広く認められるか」ということを意味し、それに対して社会政治的正当性は「新しい形態が一般に認められた原則や一般に受け入れられた規則と標準にどの程度一致しているか」を意味する。アルドリッチ教授の研究の狙いは、「産業の正当性」および「革新的企業者の追及する正当化戦略」に影響を与える要因に焦点を当て検証し、さらに仮説を提示することであった。したがって、それは制度的な要因状態における新しい産業が創り出され、正当性を得た産業として発展するに至る過程を妨害したり支持したりする要因を識別することである。本研究を通じて、現在の理論の拡張、また組織の正当性と産業の創出の関連性を検証するのを試みている。生態学派、制度学派、経済学における諸研究領

域の「正当性」をめぐる議論を十分に整理・検証し、仮説を導いている作業は貴重である。彼は、正当性をめぐる生態学派と制度学派の論争を歴史の left-censoring の問題として分析し、研究の方法論的課題を提示した。

Aldrich教授の本研究は、やがて論文としてまとめられ、詳しい研究内容などは、それを参照して頂きたい。講演会では、参考資料 "Fools Rush In? The Institutional Context of Industry Creation" を中心に発表が行われた。

(講演は英語で行われました。)

(文責：社会科学科教授 安積仰也)